

《履修上の留意事項》講義をより効果的にするために様々な連絡をアナウンスする場合がある。それらの情報に遺漏が無いよう、教員側が閲覧確認できるよう努めること。

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子

【概要】

医療機関における入院期間の短縮や入院病床数削減などにより、地域や在宅で生活する障がい者や高齢者の増加が見込まれる。また、これらの人々に対する理学療法は、疾病の三次予防はもちろんのこと、それ以上に二次予防や一次予防的視点が求められている。

今後、社会ニーズの要請に対応するべく、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設等における通所及び入所者を対象としたリハビリテーション、さらには介護予防や障害予防のための取り組みについて制度的背景と併せて理解する。

【学修目標】

【一般目標】

地域理学療法における理学療法士の取り組み背景や内容を理解するために、地域概念、諸制度、地域生活者に対する理学療法的評価や具体的支援内容について説明できる。

【行動目標】

1. 疾病の一次予防、二次予防、三次予防について各々の具体的内容や相違について説明することができる。
2. 地域リハビリテーションの歴史並びに我が国の今日の介護予防や障害予防に対する施策的取り組みについて説明することができる。
3. 訪問リハビリテーションの目的、対象、具体的内容及び関連法制について説明することができる。
4. 施設入所者及び通所者に対するリハビリテーションの目的、対象、具体的内容及び関連法制について説明することができる。
5. 介護予防のためのポピュレーションアプローチについて、その目的、対象、具体的内容及び関連法制について説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	地域リハビリテーションと地域理学療法の概念と歴史	・地域リハビリテーションの概念と歴史 ・地域理学療法の概念と歴史 ・ノーマライゼーション ・ヘルスプロモーション	鈴木英樹
2	人々の生活を支える視点について	・生活を視る視点と発想 ・国際生活機能分類	鈴木英樹
3	地域理学療法と社会情勢	・要介護の原因 ・健康寿命の延伸 ・地域包括ケアシステム	鈴木英樹
4	地域理学療法と制度	・制度を学ぶ意義 ・公的介護保険 ・手帳制度 ・障害者総合支援法	鈴木英樹
5	地域理学療法の対象と支援方法	・健康増進や介護予防のための働きかけ ・訪問や通所サービス利用者 ・入所者 ・療育	鈴木英樹
6	理学療法的支援 ～起居動作・良肢位～	・起居活動の制限に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹
7	理学療法的支援 ～動く・移動する～	・屋内外での移動制約に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹
8	理学療法的支援 ～食べる～	・食事活動の制限に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹
9	理学療法的支援 ～排泄する～	・排泄活動の制限に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹
10	理学療法的支援 ～生活範囲を広げる・交流する・役	・参加制約に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	割を果たす～		
11	理学療法的支援 ～介護予防～	・介護予防（主としてフレイルやサルコペニア予防）に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	長谷川純子
12	理学療法的支援 ～認知症、軽度認知障害～	・介護予防（主として認知症やMCI予防）に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	長谷川純子
13	理学療法的支援 ～環境の側面～	・生活環境に対する地域理学療法介入の目的と意義、具体的対応	鈴木英樹
14	地域の仕組み	・地域が抱える課題に対する地域理学療法介入の目的や意義、具体的対応	鈴木英樹
15	世界の地域リハビリテーション ～地域社会に根ざしたリハビリテーション～	・世界各地で実践される地域リハビリテーションの目的や意義、具体的取り組み	長谷川純子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 70%

毎講義の際の小テスト 30%

講義中の小テスト及び定期試験、追再試験終了後、問合せがあった場合には模範解答を例示する。

【教科書】

鈴木英樹 編 「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 地域理学療法学」 中山書店 2021年

【参考書】

浅川育世 編 「ビジュアルレクチャー地域理学療法学（第3版）」 医歯薬出版 2019年

細田多穂 監修 「地域リハビリテーション学テキスト改定第2版」 南江堂 2012年

野尻晋一 作・画 「漫画で見る生活期リハビリテーション」 三輪書店 2017年

【備考】

地域理学療法（生活障害に対する理学療法）の要点は、人々の生活に対する専門職としての好奇心と、生活障害を改善しようとするための熱意や創意工夫であると考ええる。そして、それらの思考は、教科書をただ読むだけであったり、試験のための勉強をするだけでは身に付くものではない。この講義を通して、先述した要点を少しでも実感できるよう各自が主体的に取り組むこと。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと（80分）。

復習は、教科書やプリントを活用し学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士、専門理学療法士；生活環境支援、介護支援専門員）

長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級、サルコペニア・フレイル指導士）

【実務経験を活かした教育内容】

地域理学療法の実践経験を活かし、生活期における地域住民や地域に対する支援のための視点や具体的な実践方法について講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している